

平成 18 年度 第 2 回事前調査検討専門部会議事録(案)

日時：2007 年 2 月 15 日 午後 2 時から午後 5 時まで

場所：海洋研究開発機構 東京事務所 大会議室

出席者（敬称略）

専門部会委員：○芦 寿一郎（東大海洋研），＊荒井晃作（産総研），田沢章広（帝国石油），
辻 喜弘（JOGMEC），☆日野亮太（東北大学），☆三浦誠一（JAMSTEC），☆矢口良一（三井石油開発）
☆兼 SSP 委員，＊兼 IODP 執行部担当，○部会長

SSP 委員：金松敏也（JAMSTEC），朴 進午（東大海洋研），松田博貴（熊本大学）

オブザーバー：木戸ゆかり（JAMSTEC, CDEX 岡野委員代理），棚橋 学（産総研, EPSP リエゾン），
山崎利嗣（産総研, No. 613 Full 13 Lead Proponent）

事務局：長橋 徹，加賀谷 一茶

委員の自己紹介

資料の確認

報 告

1. プロポーザルの提出状況（事務局）

2006 年 10 月におけるプロポーザルの提出状況（専門別，地域別，提出時期別，国別）が紹介された。

2. 各機関による最近の調査と予定

・ CDEX（木戸）

熊野灘 3 次元地震探査の概要，および，相模湾「うらしま」調査，下北半島東方沖海域「ハイパードルフィン」調査，沖縄伊平屋 SCS 探査，沖縄トラフ MCS 探査，の航海計画について紹介がなされた。

・ IFREE（三浦）

伊豆-小笠原における MCS, OBS 探査および探査計画の概要，ならびにエアガンの更新，その平成 20 年度からの稼働について紹介があった。

・ IFREE（金松）

平成 21 年度より深海調査研究の長期計画見直しについての紹介があった。

・ 産総研（荒井）

日本四島周辺の 30 年にわたる調査が終了予定で，その情報（地震・物探・採泥等）はデータベースとして公開中であることが紹介された。また，再来年度より沖縄トラフ周辺での調査の実施を予定していることについて紹介された。

民間海洋調査（田沢）

民間の海洋調査として，一昨年まで，三陸沖，福島～茨城沖，新潟沖において 2 次元地震探査・3 次元地震探査が行われたが，昨年からはそれらの結果に基づく試掘のフェーズに入っており，小規模なものを除き海洋調査は実施されていない。

・ JOGMEC（辻）

基礎調査は調査実績なし。大水深基礎調査については平成 18 年度は大陸棚確定調査の一環として本邦南方海域における基盤岩採取および過年度取得データの再処理等を実施した。平成 19 年度については未定。

・大水深調査（棚橋）

フィリピン海・南鳥島周辺における調査について紹介がなされた。

・海洋研（芦）

淡青丸を用いた熊野トラフ泥火山の 3 次元地震探査の実施と白鳳丸による地中海の泥火山・塩水湖の調査について紹介された。追加情報として日野委員より、房総沖・日本海溝におけるスラブ内地震調査の予定が紹介された。

3. Proposal No. 612 Full 3 の紹介（山崎）

プロポーザルの研究目的およびデータバンクに提出した事前調査データについて紹介があった。掘削深度に応じて求められる事前調査データのセットや正断層とみられる構造について議論された。

4. SSP 関係報告（矢口）

札幌で行われた前回 SSP について、SSP 出席報告書に沿って紹介された。札幌では、ネットワークを用いたデータの吟味が行われたが、転送速度において問題はなかった。次回、スクリップス海洋研究所での SSP において、朴委員が退任、田中委員の代理で今回出席の日野委員が後任となる。

審議

1. プロポーザル支援アンケート結果（芦）

現在プロポーザルを提出中のプロポーネントに対して、事前調査データに関するパネルからのコメント、今後の調査予定、問題点などのアンケートを行なった。10 件中 5 件の回答があり、それぞれについて問題点の検討を行なった。特に、「ちきゅう」以外を用いる掘削計画における事前調査の支援の必要性を指摘する意見が出た。事前調査のサポート、例えば高い評価を得たプロポーザルに対する事前調査の優先的実施、等について意見交換を行なった。

2. SSP パネル事前打合せ（矢口・芦）

今回より SSP に参加の松田委員と日野委員よりレビューの方法、データセットの確認用マトリックスに関する質問が出た。前回、田中委員作成の SSP のタスクに関してまとめた資料のコピーを配布し情報を提供した。次回の事前調査部会において、日本での SSP 開催の会議について案を議論することとした。また、田中委員の後任について部会委員で検討を始めることとした。

3. 事前調査に関する広報（芦）

現在、プロポーザル提出中の約 8 割は海洋調査を実施している機関のプロポーネントである。今後、より広くプロポーザルの提出を促進するため、事前調査の種類・内容等の紹介とともに、過去のデータの参照の方法、近く行われる調査概要などの情報提供を Web で行なう必要がある。雛形を作成し、将来的に地球掘削科学コンソーシアムのホームページでの公開を行なう準備を始めることとした。航海計画の集約は地球物理関係では、「海の会」、地質関係では「地質学会海洋地質部会」で行なうこととした。